

あらかわ子ども応援ネットワークについて

令和7年1月31日
荒川区社会福祉協議会

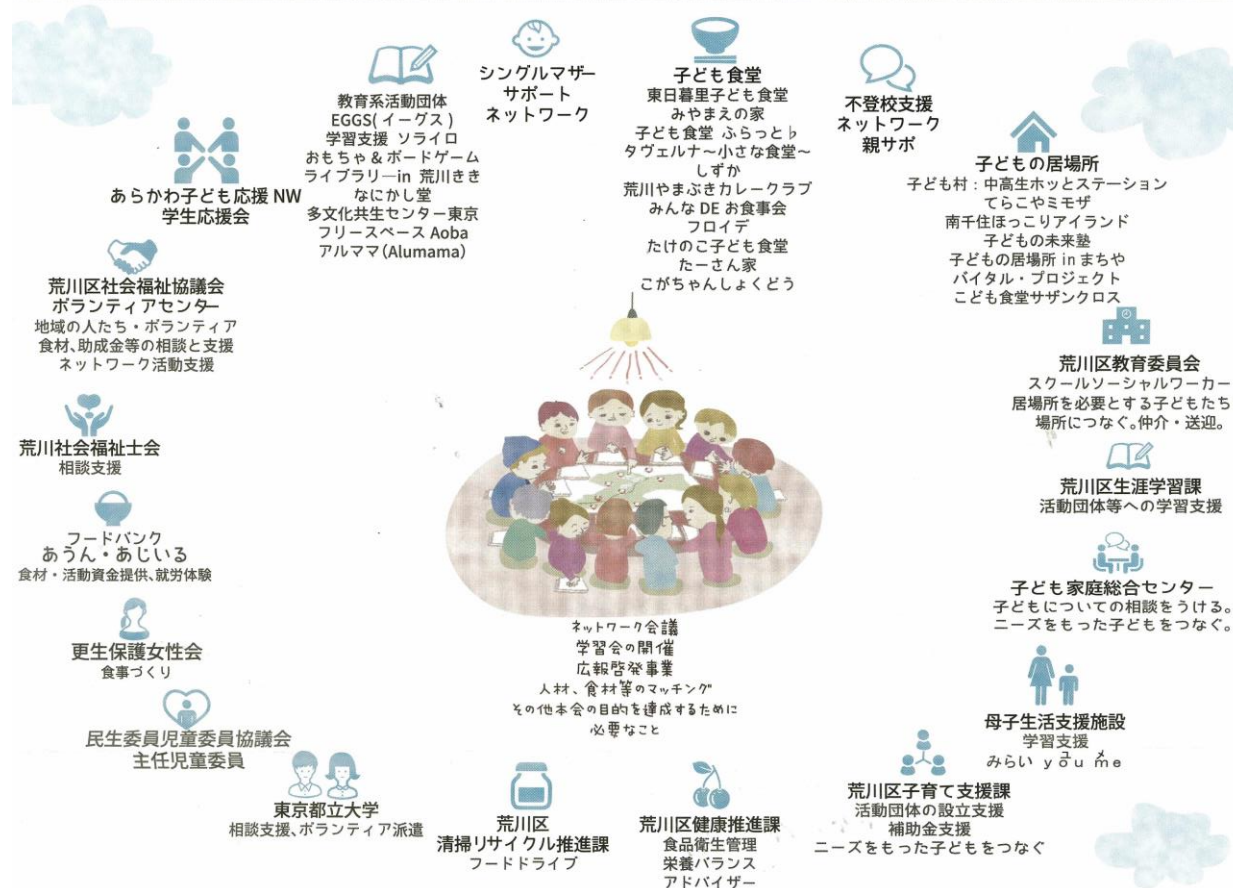
あらかわ子ども応援ネットワークについて

あらかわ子ども応援ネットワーク

Arakawa Kodomo Ouen Network

2024年4月発行

編集・発行 あらかわ子ども応援ネットワーク



あらかわ子ども応援ネットワーク

あらかわ子ども応援ネットワークとは

三者三様の支援を

あらかわ子ども応援ネットワークには、荒川区の地域住民に加え、行政や社会福祉の専門機関、学術機関、医療機関、NPO法人等が関わっています。相互に連携しながらも、それぞれの立場からそれぞれが得意とする支援を行います。

1人の子ども、 多くの大人

子どもは多様なバックグラウンドを持った大人との出会いを通して、人格を形成しています。子どもにとっての身近な大人との出会いと、つながりを豊かにするためのサポートを行います。



地域社会で 子どもを支える

- ・地域社会で子どもの健全な成長に対して思いを持った方
- ・地域社会でそのような思いを持った方を後方から支えたい方
- ・あなたの思いを、実際の活動につなげていくコーディネートを行います。

8の取組みと活動

1. ネットワーク会議

3か月に一度(4月、7月、10月、1月)
第3月曜日 18:30 ~ 20:30

2. ボランティア説明会

毎月 第4月曜日 18:00 ~ 19:30
ボランティアセンターで開催

3. 広報啓発事業

パンフレットの発行
ウェブページ/フェイスブック

4. コーディネート

食材、資金支援、ボランティアや見学等の受付
メーリングリストにて情報共有と調整

5. 地域行事への参加

活動紹介啓発と子どもたちのボランティア
体験の場の提供

6. クローズ型 活動の情報交換会

7. フードパントリー活動

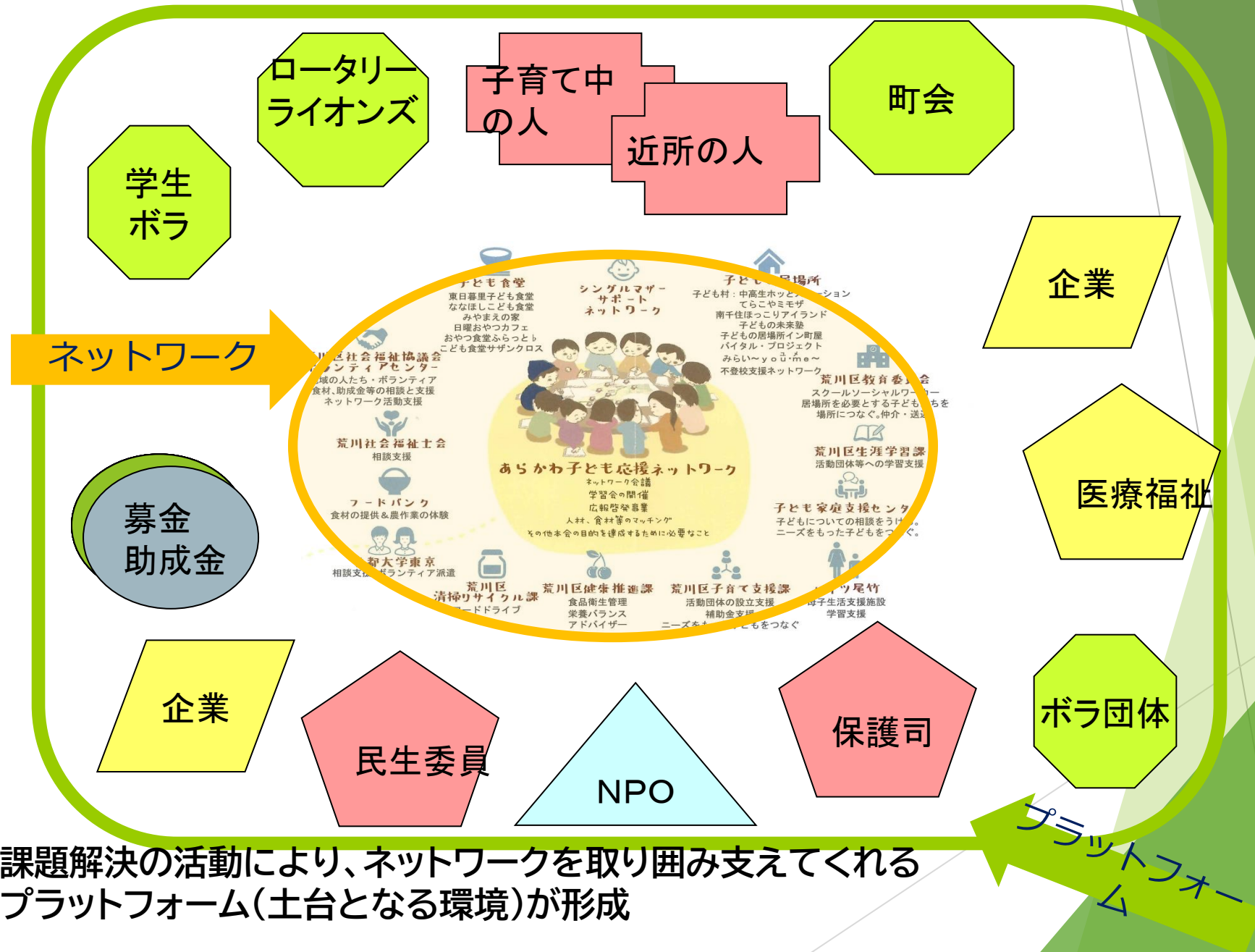
8. 全国の子ども食堂等のネットワーク

■「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議
一般社団法人 全国食支援活動協力会

■認定 NPO 法人 全国子ども食堂
支援センターむすびゑ



社協はネットワークの事務局の一部・連絡先を担う。意思決定はネットワークが行う。



制度の隙間を住民と・・・

荒川区で子ども食堂ができるまで

子どもの貧困 （経済的貧困・関係性の貧困）



住民からの「あの子たちの居場所を作りたい」



社協が住民の活動をバックアップ

人、場所、お金、物・・・



子ども食堂が区内に19か所

- ▶ 安心して、手作りの食事をみんなで食べる
- ▶ 安心・信頼できる大人や友達ができる
＝ソーシャルファミリー 居場所
- ▶ 将来に希望が持てる



「学びサポートあらかわ」に関わるボランティアから
学習支援だけでなく、子どもたちがホッとできる居場所を 作りたい

ソーシャルファミリー
をつくりたい

- ネグレクト家庭の子どもは、なかなか保護されることが難しい。
- 支援を求めない親も多い。
- 生活基盤のぬかるんだ所には子どもは立てない。
- 行政でもいろいろな支援はあるが、それにつなげるのは「人」である。
- 子どもは本来力を持っているので、その力を発揮できるように大人がサポートしていきたい。
- 家庭の中でも「無縁」の状態で生活している子どもは、自己肯定感が低くなってしまっている。
- 子どもは「大人の匂い」に敏感であることが多い。

必要な支援は 人と場と活動資金と地域の理解

人

- ・思いに共感し一緒に活動をしてくれる人をつなぐ～元・現民生委員児童委員、青少年委員、ボランティアなど

場

- ・学習支援だけではなく食事提供もできること
- ・中高生にとっても、ボランティアにとってもほっとでき居場所になること
その実現のためには、公共の施設を借りるのでは限界がある

活動の場を提供してくれるMさんにつなぐ

※Mさんから120㎡ある住居を何かにつかえないかという相談を受けていた

資金

- ・歳末助け合い地域福祉募金の地域福祉活動助成
- ・活動を支える賛助会費を集めるための支援～ライオンズ・ロータリークラブ、民協、企業などにつなぐ
- ・食材の提供 ～フードバンクにつなぐ
- ・区の子育て支援部に、活動助成の相談

理解

・学校の理解・地域の理解

- ・教育委員会、中学校長会へ活動を周知し、理解と協力を求める
- ・地元町会、民生委員協議会へ 活動を周知し、理解と協力を求める

あらかわ子ども応援ネットワーク発足までの経過

平成26年 「子ども村 中高生ホッとステーション」 荒川区最初の子ども食堂(居場所) 開始

27年 区が子どもの居場所づくり事業を開始（補助）

居場所 2か所

28年 居場所 5か所

子ども食堂 1か所

29年 ネットワーク発足

*以降 3か月に1度ネットワーク会議

*日常的に 食材や支援、研修等の情報をメーリングリストで

区が子ども食堂への補助開始

あらかわ子ども応援ネットワークの財源等

自主財源及び寄付・民間助成金で賄っていること

▶ 広報紙	}	1,525,615円
▶ パントリー食材の7割以上		
▶ 定例会会場費		
▶ 倉庫代		
▶ パントリーボラ昼食代		

区の補助金としては ・パントリー食材費 500円×人数（野菜を購入）1,194,326円

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

社協は 中間支援組織 として、行政と地域の間、団体と団体との間に立つ
支援の必要な方を支える人たちを支える立場

ネットワークによる成果と課題

- ▶ **成果** ・寄付(物品、食材、お金)等を一括で受けられる
 - ▶ →企業・広い範囲・分野・多くの住民からの協力を受けられる
- ▶ ・課題の共有ができる→お互い相談できる、研修（食堂、不登校、広報…）
- ▶ ・それぞれの団体が持つネットワークがさらに共有される
- ▶ ・行政が入っている、みんなとやっている安心感
- ▶ ・モデルがあることでやり始めるハードルが低い
- ▶ ・行政の相談機関とのつながりが強まってきている
- ▶ ・一人の子どもを複数の居場所等で関わっていくことができる
- ▶ ・様々な活動者とのつながりができる
 - ▶ （ボラ団体、民生委員、主任児童委員、保護司、PTA、企業、大学…）

ネットワークによる成果と課題

- ▶ **課題** ・子どもとのかかわりが深まる中での苦悩 家族の課題
 - ▶ ・子どものケアについての行政対応へのジレンマ
 - ▶ ・コーディネーター(事務局機能)の負担
 - ▶ ・ネットワークに対しての予算措置(コーディネーター予算)
 - ▶ ・物品保管等の場所
 - ▶ ・行政との役割分担
-
- ▶ 社協は、子どもたちへの直接支援ではなく、子どもを最前線で支える皆さんの支援をする役割、行政と住民の間で調整を取る役割(中間支援組織)。
 - ▶ 地域にあるハードとハート(ものかね・ひと・きもち)を呼び込み活動と結びつける

今後の展望

ネットワーク内の団体で部会を発足し、
団体同士で共通の課題などに取り組む

- ・広報部会

- ①ボランティアスタッフの確保
- ②あらかわ子ども応援ネットワークの認知向上

- ・不登校支援部会

- ①子どもが不登校支援団体を利用するまでの流れの周知
- ②不登校支援についての地域住民、様々な機関への理解

部会の発足は初めての試み。子ども達のために「まずはやってみよう」というスタンスで開始。



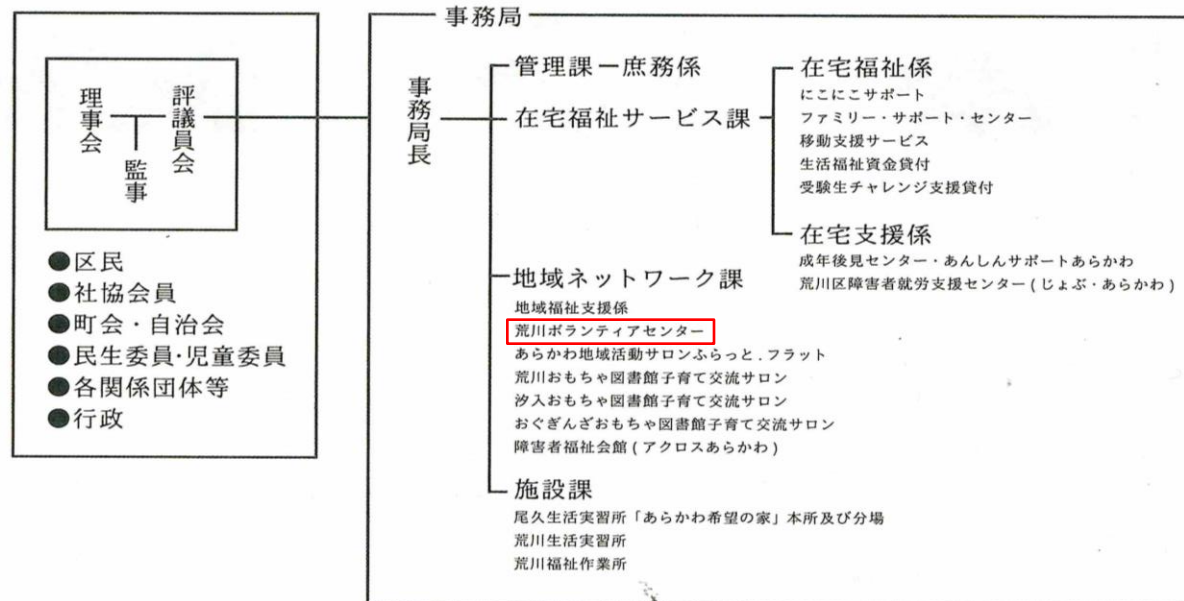
社会福祉協議会 とは？

- ▶ 地域福祉活動を推進することを目的とした 社会福祉法人(社会福祉法108条)
- ▶ 地域住民、民生委員・児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関、町会や商店街、企業等と一緒に福祉のまちづくりを行う

荒川区社会福祉協議会（略称:荒川社協）とは

1953年設立、東京都荒川区（特別区）において、「誰もが安心して暮らし続けられる街 あらかわ」を目指し、身近な課題について区民の皆様と一緒に考え、多角的な視点と柔軟性をもって、公的な福祉制度の隙間を埋める活動等、様々な場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。

組織図



荒川ボランティアセンターが
事業の1つとして、あらかわ子ども応
援ネットワーク事務局の1部を担当